

## よむよむ

加古川市立志方東小学校

令和8年 3月5日 第4号

教頭

## 本の世界はいろとりどり

第2号で「読み聞かせ」の効果を紹介しましたが、先日ラジオ番組を聞いていますと、「絵本の読み聞かせが子どもの発達に好影響を与える」について東北大学などの研究チームが全国データを分析し、調査の結果明らかになったことを紹介されていて、思わず聞き入りました。読み聞かせの頻度と継続することがコミュニケーション能力だけでなく、体の動きや問題解決の力、社会性などにも好影響を与えるとのことでした。

ふと、子どもたちにも人気のヨシタケシンスケさんのお話を思い出しました。ヨシタケシンスケさんの絵本には、「笑顔」をあまり描かないそうです。笑顔は人を傷つけることもあると考え日常のリアルに寄り添った「誠実さ」と「優しさ」が魅力となっています。志方東小学校でも「図書室にあったらいい本アンケート」でヨシタケシンスケさんのシリーズの希望があり、「にげてさがして」を購入しました。本に触れると、考えさせられたり、今の気持ちに近いものや様々な出会いがあったりして、はっとさせられることがあります。自分にあった本さがしはいかがでしょうか。

新しい本の紹介



図書ボランティアによる掲示  
～おすすめの本の紹介～

前回から引き続き、6年生がひがしっ子の「ブック・ウーマン」になって、本の価値について考えたことを紹介します。

## 本は人を変える身近なもの

私は、「ぼくのブック・ウーマン」を読んで、読書は人の性格や、人生を変えることができる魔法のようなものだと思います。

小学校の低学年の頃は、外で遊ぶよりも絵本を読んだり、図書室で気になる本を探したり、放課後も借りた本を読んだりして、本に触れる機会が多かったけど、高学年になると、授業で図書の時間がなくなったり、外で遊ぶほうが、自分の中では「楽しい」と感じるようになって、休み時間は他の学年とサッカーをしたり、放課後には学校に行き遊びに行くことが多くなりました。

でも、「ぼくのブック・ウーマン」を読んで、もともとは本に興味のなかった人でも、コツコツ読み始めると、本を読むことの楽しさに気づくことができ、想像力や集中力もついてきます。本を読むことで簡単に自分の性格や、人生を変えることができると知って、自分でもっと本に触れる時間を作ったほうが良いのかなと思うようになりました。

最近はちょっとでも時間があればユーチューブやティックトックを見るので、この時間を「本を読む時間」に当ててみたり、放課後もずっとずっと外で遊ぶのではなくて、本を読む日を決めてみたり、自分に合う本を探したりして、これからは少しでも本に触れる機会を作れるように工夫していきたいと思いました。

私が本を読み始めたとなると、真面目で何事にもチャレンジし、周りの人を受け入れられる、素直な人になりたいです。また、将来はブック・ウーマンのような心が広い、優しい、周りから尊敬してもらえるような人になりたいです。

今回は、続きを紹介します。お楽しみに！